



こんろから衣服への着火に注意！！

～調理中、衣服に炎が燃え移る被害が増加しています～

- ◆ ご家庭で調理中に、こんろの炎が衣服に燃え移り被害にあうケース（着衣着火）が増えています。

今年1月から6件の火災が発生しており、既に昨年1年間の件数に達しています（4月10日現在）。【表1】

- ◆ ご家庭のこんろに起因する火災件数も、昨年と比較して、ほぼ倍増しています（11件から20件）。【表2】

※こんろとは、電気こんろ、電磁調理器、電気クッキングヒータ、都市ガステーブル、プロパンガステーブル、カセットこんろ、七輪こんろなどをいいます。

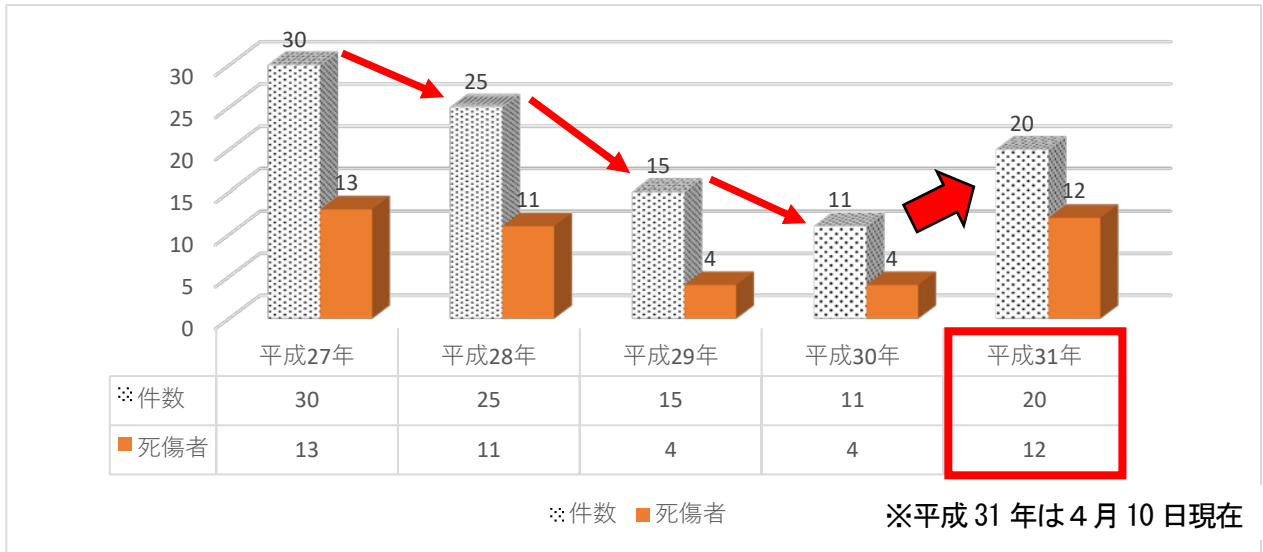
【表1】一般の住宅における衣服に炎が燃え移った火災の状況



※平成31年は4月10日現在

※平成31年の数値は速報値のため、変更することがあります。

【表2】一般の住宅におけるこんろに起因する火災の状況（1月～4月の比較）



◎ 衣服に炎が燃え移ると、やけどによるケガの可能性が極めて高くなります。調理中は、衣服に火がつかないように十分な注意をお願いします。

- 住宅火災の多くが、鍋を火にかけてことを忘れてそのまま放置してしまうなど、生活の中の「ついうっかり」という意識が引き金となっていますので、防火意識を更に高めていただくようお願いいたします。
- 調理中にその場を離れて鍋の空焚きとなり、住宅用火災警報器の鳴動により気づいたことで火災に至らずに済んだケースもあります。住宅用火災警報器やS i センサーコンロ（安全装置付きこんろ）の設置等により、安心な生活につなげていきましょう。

◆ こんろ火災の防火対策

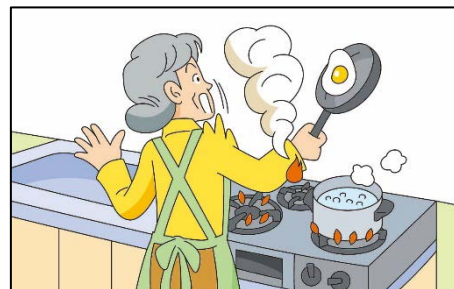
こんろによる火災は、調理中に鍋を火にかけてそのままその場を離れてしまい発生するケースが多いことが特徴です。また、衣服への着火にも注意が必要です。

調理中は、その場を離れないようにしましょう。また、衣服に火がつかないように、袖口をまくことや、防災のエプロンや袖カバーの使用を心がけましょう。

こんろによる火災の主な事例



鍋を火にかけてまま、その場を離れる。



着ている服に、炎が燃え移る。

調理中に衣服に火がついてしまったら

- 慌てずに落ち着いて水をかけて消火する。
- タオルなどで叩き消す。
- 背中などで手が届かず、消火ができない場合は、その場に倒れて左右に転がり消す。



◆ 火災から住宅を守る機器等の活用

① Si センサーコンロ（安全装置付きこんろ）

主な機能として、調理油過熱防止装置や立ち消え安全装置、消し忘れ消火機能が標準装備されており、万が一火を消し忘れるようなことがあっても火災の発生を防ぐことができます。

- 調理油過熱防止装置
油の温度が 250℃になると自動的に消火して油の発火を防ぐ。
- 立ち消え安全装置
煮こぼれなどで火が消えるとガスを遮断する。
- 消し忘れ消火機能
こんろと魚焼きグリルの火を一定時間で消火する。



安心センサー

② 住宅用火災警報器

住宅用火災警報器は、火災の発生を警報音や音声などでいち早く知らせしてくれるもので、火災の早期発見と未然防止に効果的な機器です。

住宅用火災警報器は、多くが電池で動いています。安心して警報器を使用していただくために、定期的に警報器の点検を行い、10年を目安に交換しましょう。

- 点検方法
- ①警報停止ボタンを押す、又は引きひもを引っ張る。
- ②警報音（ブザー又は音声）が鳴ります。
- ※警報音が鳴らない場合は、電池切れや故障の可能性があります。
- ※異常がある場合は、お買い上げの販売店又はメーカーのお客様相談室などに相談してください。



テストボタン



引きひも

お問合せ先

消防局予防課長 和知 治 Tel 045-334-6601